

# 人の動きを把握することで 実現するサービスの高度化 — 動線解析プラットフォームの検討 —



高度情報化研究センター 情報基盤研究室 前室長 **金澤 文彦** 研究官 **布施 孝志**

(キーワード) 動線、プラットフォーム、データ加工

近年、移動する個々人の位置をITにより特定する方法が種々開発されている。人の移動という動的情報の利用者への提供や、事業計画立案への活用のためには、位置のみでなく、時間を扱うことができる四次元GISの技術が必要となる。そこで、四次元GISデータの活用・普及により、情報提供や事業計画のフェーズにおける国土交通行政の効率化、高度化を促進することを最終目的とし、動線解析プラットフォームの開発を行った。

動線解析プラットフォームは、「人の移動を表現するデータを補正・補間し、相互利用が可能な水準に加工するサービス」と、「加工済のデータを蓄積し提供するサービス」を有する仕組みであり、データ登録機能、データ加工機能（データの発源地・到着地、移動手段、時刻の情報から、途中経路を推測し、補正・補間する機能）、データ蓄積機能、データ検索・配信機能から構成される（図-1）。本プラットフォームでは、動画像に

よる人の移動の表示が可能であり、従来困難であった人の動きの把握が行え、より肌理（きめ）の細かい交通計画の立案への活用が想定される。

動線解析プラットフォームは、多様なニーズに応えるための基本情報となる人等の移動を把握するためのプラットフォームである。今後の応用として、パーソントリップデータのデータ修正の効率化や視覚化による調査意義・結果の説明力向上、保守点検車両や災害時の派遣要員や対策車両の移動データの加工・可視化等への利用が考えられる。今後は、データ取得・解析・視覚化・公開のデータ流通の検討が必要となる。特に、効率的なデータ取得方法、データ提供主体との連携方策、事象発見（例えば、交通施策による行動変容）のための視覚化の高度化が重要となるであろう。

関連ホームページ

動線解析プラットフォーム研究会ホームページ：

<http://www.dousen-kaiseki.jp>

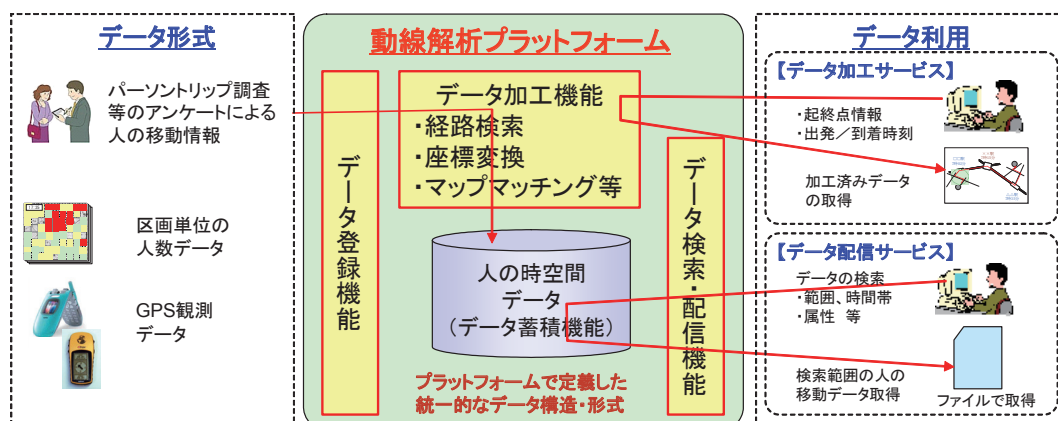


図-1 動線解析プラットフォームの概念